

# アグリ筑西

## 2021 1月号



あけましておめでとうございます。  
本年もアグリ筑西をよろしく願いたします。

県西農林事務所 経営・普及部門  
(筑西地域農業改良普及センター)発行  
Tel : 0296(24)9206 Fax : 0296(24)6979



筑西地域農業改良普及センターHPへアクセス！→

## スマート農業技術現地検討会を開催

11月18日、下妻市今泉の現地ほ場において「R & G石島輸出用米低コスト栽培実証コンソーシアム」及び「県西地域輸出米生産者協議会」主催によるスマート農業技術現地検討会が開催され、生産者、農機メーカー、JA、県関係機関28名が参加しました。

当コンソーシアムは、令和元年度より農林水産省の「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト」に参加し、輸出用米の超低コスト生産の実証に向け、ロボットトラクターやオート田植機等のスマート農業技術を有効に活用するための検討を重ねてきました。

当部門は実証内容とこれまでの技術の改善点について概要を説明し、ヤンマーアグリジャパン(株)はロボットトラクターに新しく追加された枕地の自動走行機能や作業開始・停止リモコンの通信距離延長、リモートセンシング・可変施肥技術の新しい取り組み等について実演を交えて紹介しました。

また、実証農家である(株)ライス&グリーン石島から、さらに省力化するための今後の課題として、農薬・肥料散布用ドローンの導入やロボトラの搬送方法の改善等が示されました。

参加者からは農機の販売価格や技術の精度等の活発な質疑がありスマート農業への関心の高さが伺えました。

当経営・普及部門では、今後もスマート農業を活用した経営改善について支援していきます。



写真:ドローンの説明の様子

## 下妻の梨、今年も海外へ

本年のナシは4月の晩霜害や7月の長梅雨といった苦難が多々ありましたが、下妻市果樹組連合会(JA常総ひかり)では今年もナシ約60tを、ベトナムを中心に輸出しました。

輸出では相手国の求める検疫条件を達成しなければならず、当連合会では検疫合格できるよう、害虫防除のためのフェロモン剤の設置や薬剤散布を徹底してきました。また、ベトナムやアメリカといった様々な国の残留基準値に対応するため、輸出用の参考防除例の検討も行いました。その結果、ベトナム、タイ、アメリカなどの国に、幸水や恵水等を約60t輸出し、現地でも高い評価を受けています。



写真:ハワイの現地スーパーでの販売の様子

輸出相手国	ベトナム、タイ、香港、シンガポール、アメリカ
輸出品種	幸水、あきづき、新高、恵水



# ムギの多収化・高品質化にむけてムギ踏みを行いましょう

本年は11月の降水量が少なく、ムギの播種作業は11月中に概ね8割程度が終了しており、早い播種では出芽も早くやや軟弱徒長気味なものも見られます。

一方、今冬はラニーニャ現象が続く可能性が高く、寒気が流れ込みやすいので、ムギ踏みの励行がより一層大切です。

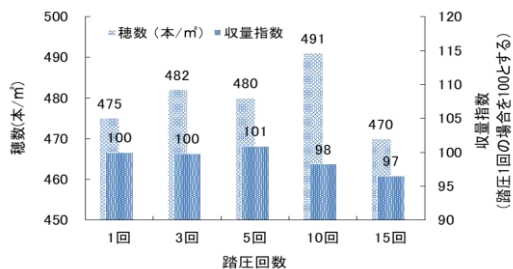


図 踏圧回数とコムギの穂数・収量指数(群馬県農業試験場(新井,1983)より引用)

## 【ムギ踏みの効果】

- ① 茎数の増加
- ② 倒伏の防止
- ③ 耐寒性と耐干性の向上
- ④ 霜柱による根の浮き上がり防止
- ⑤ 生育の均一化 等

ムギ踏みは、3～4葉期から茎立ち期までに3回程度行いましょう。こまめに何回も実施しても効果が高まることはありません(図)。11月上・中旬播種の場合は、年内1回、年明け2回の実施が適切です。踏圧の程度は、昔ながらの人の足で踏むくらいが望ましく、トラクタにタイヤローラや平滑ローラを装着する場合は設置圧に注意してゆっくりと行いましょう。軽いローラで早いスピードの踏圧は、土面が平らになるだけでムギ踏みの効果が小さくなります。また、土壌が乾いているときに実施しましょう。葉に露がないこと、鎮圧ローラに土が付かないことなどが実施目安になります。

## 農業学園「イチゴ講座」を開催しました

11月13日、令和2年度農業学園第4回講座「イチゴ講座」を開催し、管内の若手生産者6名が参加しました。講師には、管内でイチゴ生産を行う農業経営士の廣瀬勝志氏を迎え、廣瀬氏の作業場及びほ場において講義を行いました。



写真: 講座の様子

講座は、イチゴ栽培管理のポイントや栽培施設の工夫等について説明を受けながら、実際のほ場や育苗の様子を見学しました。また、普及センター職員よりイチゴの花芽分化の要因や温度管理等「イチゴ栽培の留意点」について説明しました。

学園生からは、「イチゴ栽培の基礎を理解することができた。」「ほ場の様子を見たことで、自分で栽培するイメージを持てた。」との感想があり、有意義な講座となりました。

当部門では、今後も月1回のペースで農業学園講座を開催していく予定です。

## 茨城県立農業大学校学生募集(後期試験)のお知らせ

農業大学校は、農業に関する幅広い知識と高度な生産技術や経営能力を持ち、農業振興に貢献する優れた農業者等を育成することを目的としています。

そのため、講義と実習をバランス良く組み合わせることで実務能力を養うとともに、プロジェクト学習などによる、課題解決能力を身に着けるための教育を行っています。



写真: 普通作コースの実習の様子



写真: 露地野菜コースの実習の様子

願書受付期間と入学試験日(まだ間に合います！)		募集学科
令和3年度入学一般入試【後期】 (養成課程及び研究課程において、若干名募集を行います) 願書受付期間 令和3年2月1日(月)～19日(金) 入学試験日 令和3年3月4日(木)		養成課程2年 農学科、園芸学科、 畜産学科
※ 出願資格は高卒または卒業見込者です。 ※ 推薦入試、一般入試前期は終了しました。		研究課程2年 研究科
(問い合わせ先) ●長岡キャンパス(養成課程:農学科、畜産学科 研究課程:研究科) TEL:029-292-0010, 住所:茨城県長岡4070-186 ●岩井キャンパス(養成課程:園芸学科) TEL:0297-34-2141, 住所:坂東市岩井5205-3		

## 普及員のひとりごと ～坪井真樹～

令和2年4月に、県北から異動してきました。主に筑西市の普通作を担当しています。県西の第一印象は「広大でまったいら！」です。でも、足元の土に近付いてみると、川からの距離で砂利の大きさが違ったり、黒ボク土の水田が多かったりと特徴がいろいろありました。これからも広さに惑わされず地域の発見をしていきたいです。